

平成20年度事業報告書

I.法人の概要（平成21年5月1日現在）

設置する学校・学部・学科等

徳島文理大学大学院

- 人間生活学研究科（人間生活学専攻、食物学専攻、生活環境情報学専攻、児童学専攻、心理学専攻）
- 薬学研究科（薬学専攻、医療薬学専攻）
- 香川薬学研究科（創薬科学専攻）
- 文学研究科（地域文化専攻）
- 工学研究科（ナノ物質工学専攻、システム制御工学専攻）

徳島文理大学専門職大学院

- 総合政策研究科（地域公共政策専攻）

徳島文理大学専攻科（人間生活学専攻科、音楽専攻科、助産学専攻科）

徳島文理大学

- 人間生活学部（人間生活学科、食物栄養学科、児童学科、心理学科、メディアデザイン学科、建築デザイン学科）
- 保健福祉学部（看護学科、人間福祉学科）
- 音楽学部（音楽学科）
- 薬学部（薬学科（6年制））
- 総合政策学部（総合政策学科）
- 香川薬学部（薬学科（6年制）、薬科学科（4年制））
- 文学部（文化財学科、日本文学科、英語英米文化学科）
- 理工学部（臨床工学科、ナノ物質工学科、機械創造工学科、電子情報工学科）

- 生薬研究所
- 比較文化研究所
- 健康科学研究所
- 未来科学研究所
- 神経科学研究所
- 臨床心理相談室

徳島文理大学短期大学部（保育科、生活科学科、商科、言語コミュニケーション学科、音楽科）

徳島文理高等学校

徳島文理中学校

徳島文理小学校

徳島文理大学附属幼稚園

II.事業の概要

平成20年度の主な事業の内容は以下の通りです。

1. 大学教育の改革と推進

(1) 学部・学科等の設置・改組等

○平成20年度には

- ①徳島文理大学 人間福祉学部を保健福祉学部に変更
- ②徳島文理大学 文学部・英米言語文化学科を英語英米文化学科に変更
工学部・機械電子工学科、情報システム工学科をそれぞれ
機械創造工学科、電子情報工学科に変更
- ③徳島文理大学 保健福祉学部看護学科を設置

○平成21年度開設予定および変更の届出等

- ①徳島文理大学専攻科 助産学専攻科を設置
- ②徳島文理大学 工学部を理工学部に変更
- ③徳島文理大学 人間生活学部・住居学科を建築デザイン学科に変更
- ④徳島文理大学 未来科学研究所内に地域共同開発センターを設置

(2) 大学・短大教育の推進

- ・平成19年3月に完成したメディアセンター棟を基軸に学生サポート環境と情報教育環境を統合した全学的総合実践教育を実施しております。
メディアセンターに配備されたマルチメディアコンテンツ及びシステムを活用し、学生のITC能力の向上をはかるとともに、教育コンテンツの創造的制作、正規授業への積極的展開をはかり、時代を見据えた教育体制の充実をはかりました。
- ・徳島県、県内企業、本学の官・産・学連携による「求められる人材教育」を目的とした中小企業振興講座を15回開講いたしました。
- ・インターンシップの単位認定を実施いたしました。
徳島県内の18自治体・企業で実践を行い、延べ47名の学生が参加いたしました。
- ・第94回薬剤師国家試験合格率は77.9%（平均合格率74.4%）と平均合格を上回り、管理栄養士国家試験合格率は68.7%（平均合格率29.0%）で平均合格を大幅に上回っております。
- ・就職活動等支援体制の強化に努めた結果、平成21年度の公立学校教員合格者数は57名となりました。

(3) 国際交流の推進

グリフィス大学（オーストラリア）、グロスターシャー大学（英国）との姉妹校協定を締結し

たことにより、海外姉妹校はウィーン国立音大、マサチューセッツ工科大等を含む14校となりました。

また、20年度の姉妹校との学生交流実績は派遣延べ25名、受入延べ49名と積極的な国際交流を展開しております。

(4) 主な教育研究活動と補助金等の取り組み

○科学研究費補助金

20年度の採択実績は55件で、応募私立大学511校中49位と高い研究力を示しました。

○私立大学戦略研究基盤形成支援事業

基幹的な研究を文部科学省が支援するもので、本学は3プロジェクトの応募を行い、すべて採択されました。

○戦略的大学連携支援事業

国公立の大学間連携を支援するため文部科学省が20年度より開始した事業で、本学が参加する以下の2件が採択されました。

1) 「地域連携型総合医療教育研究コンソーシアム構想」

本学が代表校となり国公立2校と連携し、優秀な医療人の育成をはかるものです。

2) 「「四国の知」の集積を基盤とした四国の地域づくりを担う人材育成」

本学と四国島内の7大学が連携し、地域に根ざしつつ高い専門性を持つ人材の育成をはかるものです。

(5) その他の教育活動の取り組み

- ・「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」（独立行政法人 日本学術振興会主催）に本学から4つのプログラムが採択され、平成20年7月～10月にかけて実施し、大学の最先端の研究成果を小・中・高生に体験してもらうことができました。
- ・「メタボ予防教室」や「糖尿病予防教室」を3回開催して、徳島市内の中高年50～60人を対象に3ヶ月間の運動・栄養指導を行い、メタボ、糖尿病発症リスク回避および回避のための生活改善教育を開催しました。
- ・徳島県、新聞社、放送局の協力を得て、本学主催の「第1回 徳島音楽コンクール」の開催を決定いたしました。（開催日 平成21年10月18日）
- ・小学校教員1次試験免除・特別推薦入試制度の継続導入
平成20年度は6名受け入れ、平成21年度は9名の受け入れを予定しております。
- ・防災啓発用としての作成したアニメーション教材（CD-R）ならびに防災絵本（本学の教員既作成のもの）を防災授業に役立ててもらおうべく、徳島県内の各市町村の教育委員会を通じ、県内の全小学校220校に配布しました。
- ・学習支援ボランティア派遣事業への取り組み
- ・「就学支援奨学金」・「薬学部スカラシップ奨学金」を新設し、学生の就学支援体制充実に努めました。

(6) 徳島文理中学・高校の教育

自己実現をめざした中高6カ年一貫教育を実施

- ・難関大学・医・歯学部等の合格者増加をめざしたSAコース（スーパー・アカデミーコース）を開始

- ・キャリア教育推進事業の展開
- ・30年にわたる北京師範大学第二附属中学との姉妹校交流
- ・中学3年生を対象とした国際人を目指す海外語学研修を本年より実施（オーストラリア）

（7）施設設備他

- ・平成21年3月 実習支援センター完成
- ・平成21年7月の完成にむけ中学・高校新校舎建設工事を着工
- ・大学新学務システムの構築に着手しました。（21年後期稼働予定）
- ・徳島・香川キャンパスに最新のトレーニング設備を導入
基礎体力、競技力のレベルアップを目的に、両キャンパスの体育館に四国初の最新総合トレーニングマシン（サイベック社製）を導入

2. 平成20年度決算の概要

① 資金収支計算書

当該会計年度(平成20年4月1日～21年3月31日)の教育研究及びその他諸活動に対応するすべての収入・支出の内容及び支払資金の収支の顛末を明らかにする計算書です。収支の総額は219億118万円となり、次年度に繰越する支払資金は70億7,627万円となりました。

収入の部	金額(千円)	支出の部	金額(千円)
学生生徒等納付金収入	8,129,098	人件費支出	5,171,978
手数料収入	98,654	教育研究経費支出	2,167,031
寄付金収入	54,220	管理経費支出	747,551
補助金収入	1,847,105	施設関係支出	1,775,033
資産運用収入	1,097,894	設備関係支出	729,541
事業収入	198,873	資産運用支出	2,304,815
雑収入	220,707	その他の支出	2,254,352
前受金収入	1,356,209		
その他の収入	2,966,321		
資金収入調整勘定	△1,545,464	資金支出調整勘定	△325,390
前年度繰越支払資金	7,477,561	次年度繰越支払資金	7,076,267
収入の部合計	21,901,178	支出の部合計	21,901,178

② 消費収支計算書

当該会計年度における消費収入及び消費支出の内容を明らかにしております。具体的には、帰属収入(学生生徒等納付金、手数料、補助金等のことで、負債となる収入は除かれます)から基本金組入額を控除した消費収入と消費支出(経費のこと)との収支の均衡状況を明らかにする計算書です。

消費収入合計は98億2,916万円で、この額は帰属収入合計額116億5,255万円から自己資金で取得した資産額等に対応する基本金組入額18億2,339万円を差し引いた額です。

一方、消費支出合計は114億5,269万円となり、当年度の収支の差は16億2,353万円の支出超過となりました。

収入の部	金額 (千円)	支出の部	金額 (千円)
学生生徒等納付金	8,129,098	人件費	5,155,518
手数料	98,654	教育研究経費	4,770,153
寄付金	69,142	管理経費	959,972
補助金	1,847,105	資産処分差額	567,051
資産運用収入	1,097,894	消費支出の部合計	11,452,694
事業収入	198,873		
雑収入	211,782	当年度消費支出超過額	1,623,533
帰属収入合計	11,652,548	前年度繰越消費支出超過額	4,645,740
基本金組入額合計	△1,823,387	基本金取崩額	3,244
消費収入の部合計	9,829,161	翌年度繰越消費支出超過額	6,266,029

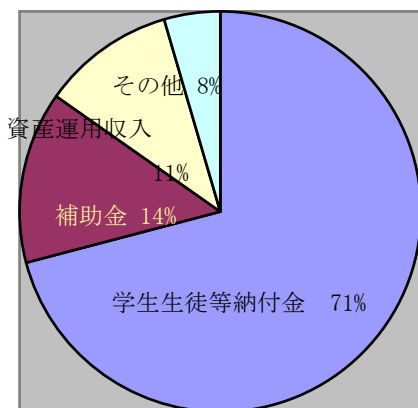
③ 貸借対照表

決算日(平成21年3月31日)における財政状況を明らかにするもので、資産、負債及び正味財産の状態をあらわしております。資産の部合計985億2,826万円に対して負債の部合計は33億7,413万円です。基本金の部合計1,014億2,016万円に消費収支差額の部合計△62億6,603万円を加えたものが正味資産951億5,413万円となります。

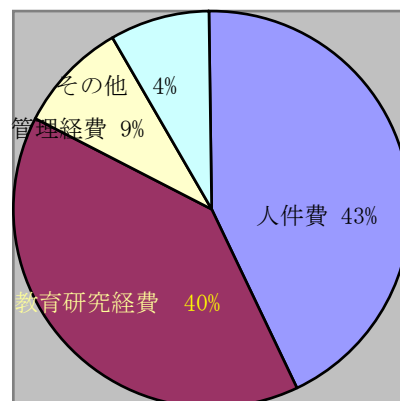
科目	金額(千円)
資産の部合計	98,528,257
固定資産	91,112,667
流動資産	7,415,590
負債の部合計	3,374,130
固定負債	1,651,407
流動負債	1,722,723
基本金の部合計	101,420,156
消費収支差額の部合計	△6,266,029
負債・基本金・消費収支差額の部合計	98,528,257

④ 構成比

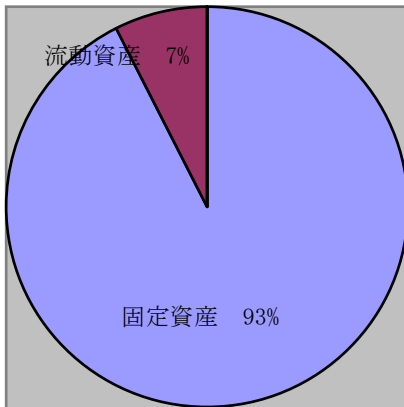
【 帰属収入構成比 】



【 消費支出構成比 】



【資產構成】



【正味資産・負債構成】

